

助成事業実施報告書

団体名...特定非営利活動法人...おおいた子ども支援ネット

代表者・役職名 氏名...専務理事・事務局長・施設長... 矢野茂生

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

生活環境改善事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当法人は平成 23 年頃より「こどもの緊急避難場所(居場所)」について行政・司法・福祉が協議を重ね、平成 26 年 11 月法人格取得、翌 27 年 4 月に児童自立生活援助事業を開始いたしました。「すべての子どもたちに明るい未来を！」を法人理念とし、今後も子どもたちの福祉の増進に寄与できるようがんばります。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当法人の自立援助ホーム「みらい」は開設したばかりで、子どもたちの暮らしに最低限必要な物資は何かそろえたものの、駐輪場等のハード面や生活の物資については資金的な不足から整備できていない状況でした。今回の助成は「駐輪場の設置(駐輪場付近の施設整備含む)」と「定員分の物資の購入」に充当させていただき、子どもたちの暮らしを少しでも豊かにする目的です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

自立援助ホームに入居する子どもたちの暮らしをより豊かに、安全にするために、「生活環境改善事業」を実施する。具体的には、「駐輪場の設置」および「生活物品の購入」を行う。現状入居者は 4 名(現在は 5 名)であるが、定員分(6 名)の物品をそろえる。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果—駐輪場の設置および周辺の整備(門扉付け等)を行うことができた。

生活物品(同封写真参照)を購入することができた。

成果—駐輪場やホーム周辺の敷地整備ができたことで、子どもたちの動線が整い、安全な環境ができた。

効果

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

先日九州地方を襲った地震によって、大きな被害は出なかったものの、その後の集中豪雨で施設内に雨漏りが複数箇所できてきた(法人は地震保険に入れず修復は大きな額が必要)。施設の劣化に伴う環境整備については今後も計画的に実施する必要がある。また、子どもたちの生活物品については消耗品であるので、大切に使用することを伝えていきたい。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし